

草の根技術協力事業 2016年度～2020年度の振り返り



草の根技術協力事業は2002年にスタートし、今年で20年の節目を迎えます。JICA東京では、当センター所管地域（東京都、埼玉県、千葉県、群馬県、新潟県、長野県）で実施した草の根技術協力事業過去5年間の振り返りを、①データ分析、②アンケート、③インタビューを通じて実施しました。振り返りを通じ、草の根技術協力事業終了後における事業への関与・貢献の実態を把握するとともに、制度に対する満足度や改善点を把握・分析することで、制度やJICA東京としての団体サポートの改善を目指します。

1ページ：表紙

2ページ：振り返り概要

3～5ページ：振り返り全体のまとめ

6～8ページ：データ分析

9～11ページ：アンケート

12～17ページ：インタビュー



遊びを取り入れた活動を実践する幼稚園教員
(シャンティ国際ボランティア会)



ヘルスボランティア数人で患者を訪問し、話し
かけながらリハビリテーション中 (佐久大学)



ワークショップを行う東洋大学国際地域学科
の学生らと現地の村の人々 (AVENUE)



草の根技術協力事業 2016年度～2020年度の振り返り

データ分析

対象：

JICA東京所管地域で、2016～2020年度に採択された案件（計77件）

方法：

対象案件を分析、団体や対象地域、分野別等に比較し、グラフや表にまとめる

目的：

- ・ 案件の傾向の把握・分析

アンケート

対象：

JICA東京所管地域で、2017～2020年度（12月末）に終了した案件（計67件）の実施団体

実施期間：

2022年1月28日～2月13日

方法：

オンライン（Microsoft Forms）

回答数：

39件（回答率58%）

目的：

- ・ 事業終了後における事業の持続性に関する実態の把握
- ・ 制度に対する満足度や改善点の把握・分析

インタビュー

対象：

現在実施中/終了直後の事業実施団体（計6団体）

実施期間：

2022年2月10日～18日

方法：

オンラインにて実施

目的：

- ・ 実施団体の声を通して、草の根技術協力事業の成果・課題の把握

草の根技術協力事業の実績（2016～2020年度）

- **NGO団体**をはじめとして、**地方自治体**や**大学**、**民間企業**などの様々なアクターが参画している 

- **東南アジア**をはじめとして、その他**アジア・アフリカ・中南米・大洋州**など計**27**カ国（様々な地域）で実施されている 

- **5**団体が**支援型からパートナー型**へステップアップ 

- 支援型・パートナー型は**教育**、**保健医療**、**社会保障**の分野が多い  

- 地域活性型は**地方公共団体の経験を活かした水資源**や**廃棄物管理**、**地域活性化**などに関する分野が多い  

実施団体からみた草の根技術協力事業の特徴と課題

特徴



課題

- JICAとの共同事業であることにより、現地関係者からの信頼が得られやすく**関係強化が進めやすい**
- 国内拠点・在外事務所の**柔軟で的確な対応・フォロー**が得られる
- 応募時点からJICAとのコンサルテーションを通して、計画立案・事業実施について**相談しつつ進められる**
- 関連分野の知見・経験の情報が得られ、**JICAのこれまでの知見・経験を活かした活動**ができる

- 経理処理をはじめとする**各種手続きが煩雑**
- 応募から案件開始まで長い時間を要する
- 人件費等の**単価が低い**
- JICA担当者の変更が多く、**引継ぎが不十分**な場合や、ガイドラインの運用が変わることがある
- JICA内（国内拠点・本部・在外事務所）の**連携強化が必要**

振り返り結果を踏まえた今後の方向性

- これまでの事業実績としては東南アジアが多かったが、より多くの国の開発ニーズに応じていく観点から、また国によっては事業実施に際して必要な了承取付等の手続きに長時間を要するといった事情もあり、**今後更により多くの国へ草の根技術協力事業が広がるよう、東南アジア以外の国での事業形成にも努めていきたい。**
- 制度面については、受託者の裁量を増やし、より一層事業に注力できる制度への見直しが行われ、**2021年度募集の採択案件より新制度適用**となる。これにより、契約や経理手続きの合理化を通じ、双方の業務が効率化される見込み。
- JICA内（国内拠点・本部・在外事務所）の**連携を強化**し、開発効果の高い事業実現を目指したサポート体制を構築。



流動的かつ複雑な課題に迅速・柔軟に対応すべく、より良い事業実施のためパートナーの皆さんと協働していきます！

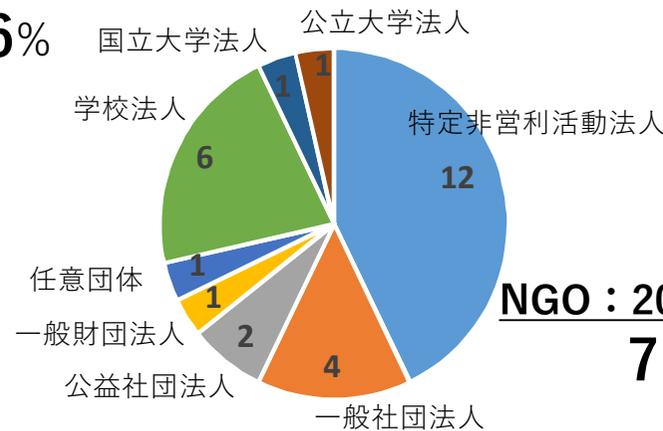
支援型からパートナー型へ
ステップアップ

1* ⇒ 5 団体に増加

(*2010~2015年度)

大学：8団体

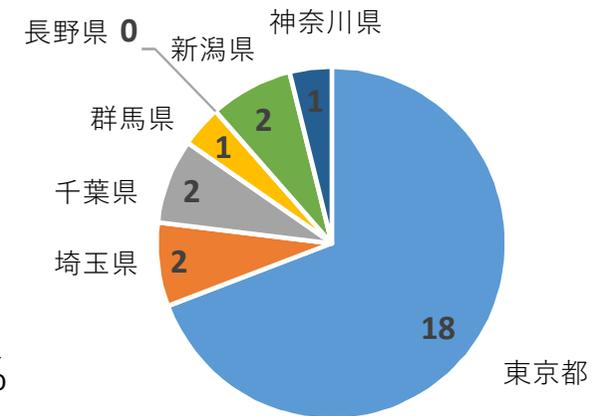
28.6%



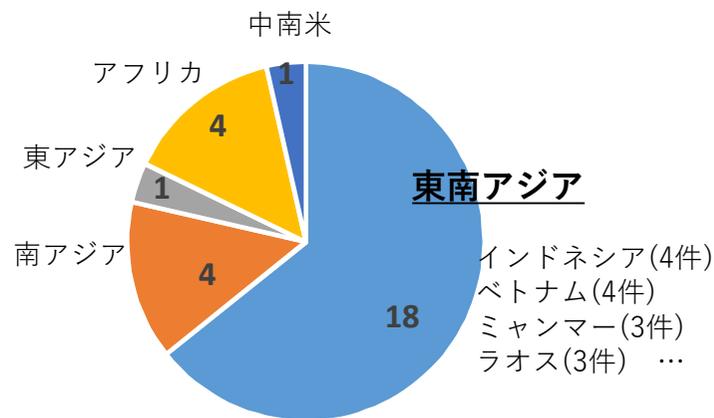
NGO：20団体

71.4%

実施団体の法人格



実施団体の所在地



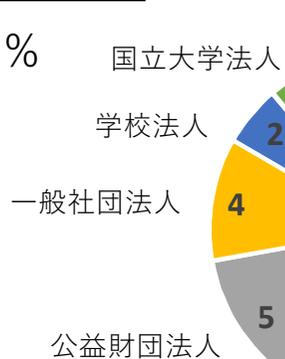
対象地域



対象分野

大学：4団体

11.1%



民間企業：2団体

5.6%

株式会社

特定非営利活動法人

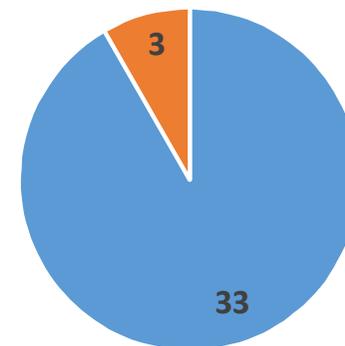
NGO：30団体

83.3%

公益社団法人

実施団体の法人格

埼玉県



新潟県 0

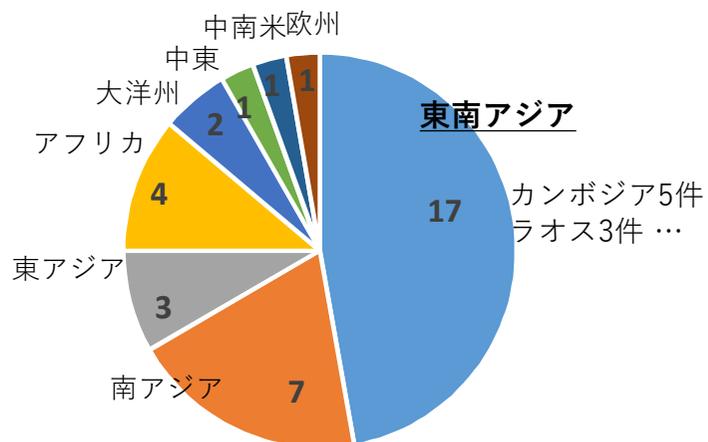
長野県 0

群馬県 0

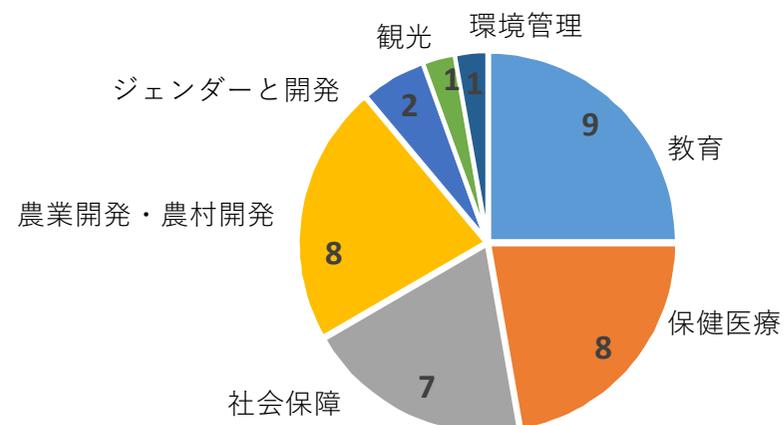
千葉県 0

東京都

実施団体の所在地



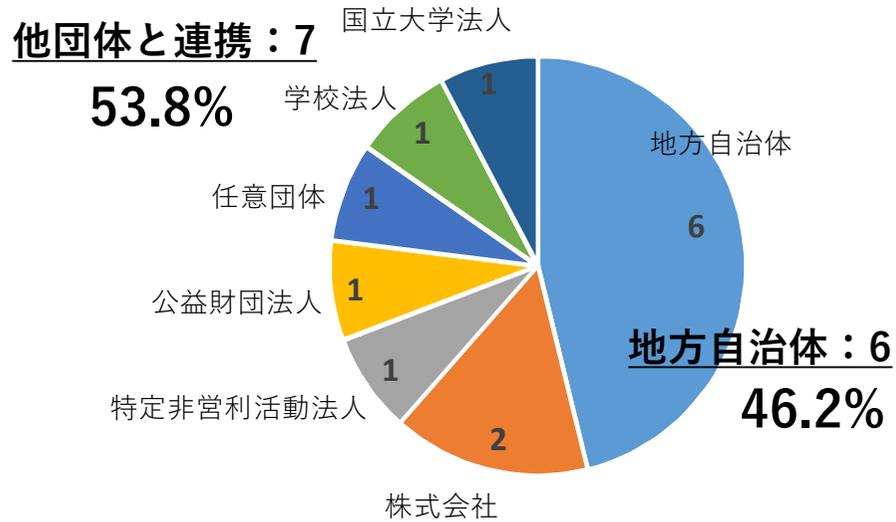
対象地域



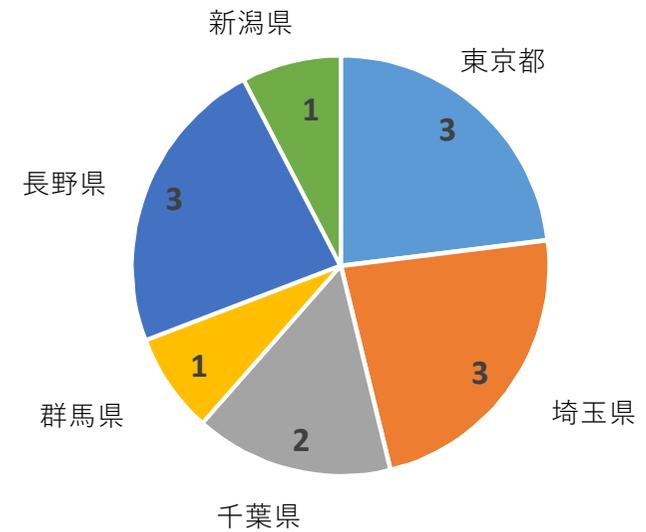
対象分野

データ分析 (地域活性型)

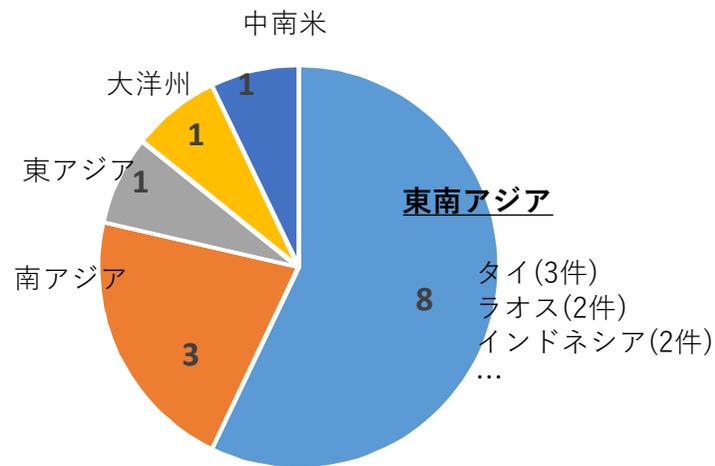
JICA東京(2016~2020年度)採択数：**13**件



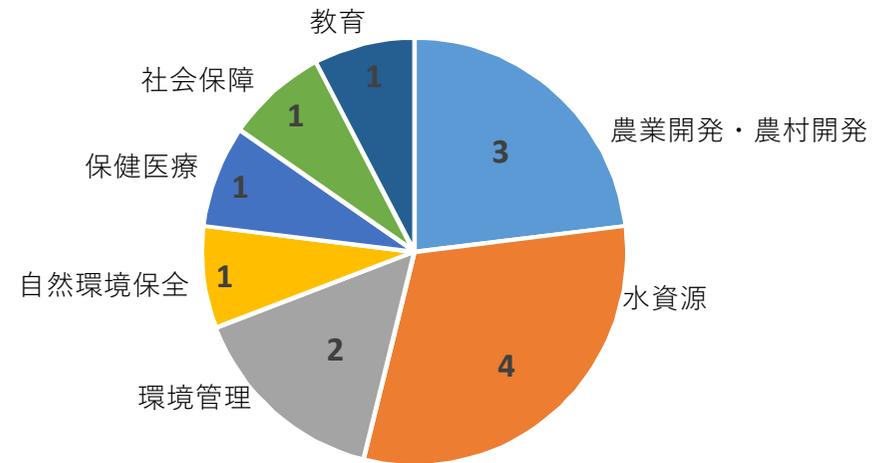
実施団体の法人格



実施団体の所在地



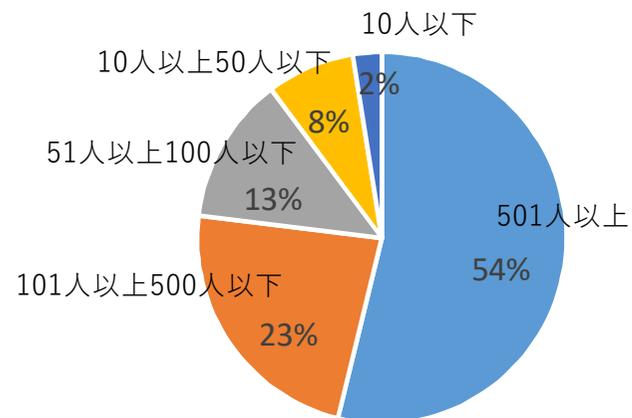
対象地域



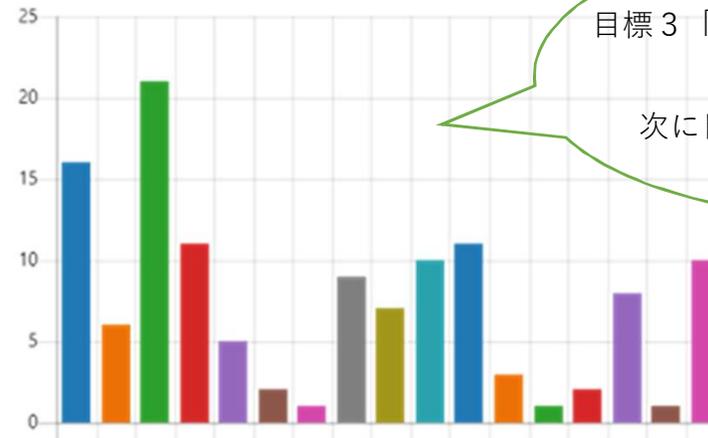
対象分野

●実施事業の傾向と事業終了後の取り組み

① 直接受益者の数



② 事業に関連するSDGs目標（複数回答有）



目標3 「すべての人に健康と福祉を」
⇒21件 最も多い

次に目標1 「貧困をなくそう」
⇒16件と続く

● 貧困をなくそう 16件 ● 飢餓をゼロに 6件 ● すべての人に健康と福祉を 21件
 ● 質の高い教育をみんなに 11件 ● ジェンダー平等を実現しよう 5件 ● 安全な水とトイレを世界に 2件
 ● エネルギーをみんなにそしてクリーンに 1件 ● 働きがいも経済成長も 9件
 ● 産業と技術革新の希望を作ろう 7件 ● 人や国の不平等をなくそう 10件 ● 住み続けられる街づくりを 11件
 ● つかう責任つくる責任 3件 ● 気候変動に具体的な対策を 1件 ● 海の豊かさを守ろう 2件
 ● 陸の豊かさを守ろう 8件 ● 平和と公正をすべての人に 1件 ● パートナーシップで目標を達成しよう 10件

③ 事業を通して得た新しいスキル・ノウハウを、他事業等に活かした経験がある

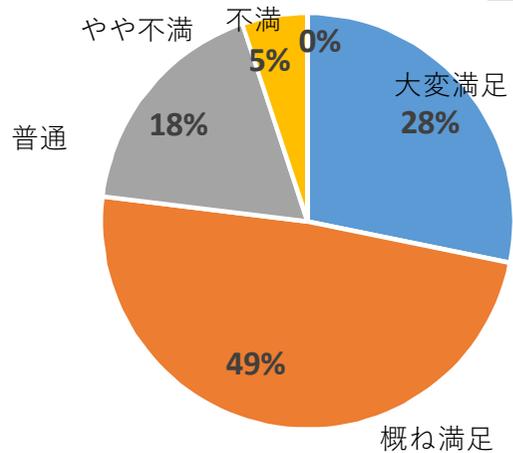
YES ⇒ **79.5%**

(類似事業への応用、他団体・組織へのグッドプラクティス等
事例共有、新事業・他地域への展開…)

●草の根技術協力事業の制度やJICAのサポートについて

④ 案件形成時・事業実施中のJICAからのサポートに対する満足度

大変満足・概ね満足 ⇒ 77%



- 関連分野情報の知見・経験の共有
- 国内センター・在外事務所の柔軟で的確な対応・フォローが得られる
- 案件担当の事業に対する理解が深い

一方で…

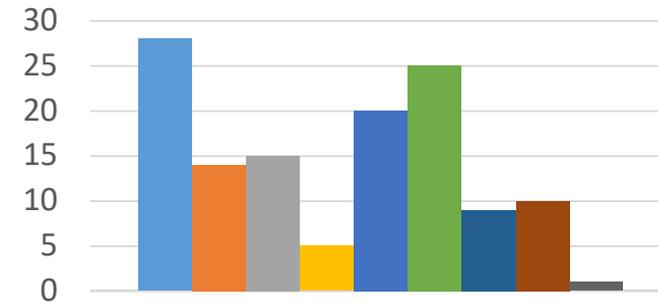
- 団体では限られた現地の情報しか得られなかったため、在外事務所の協力がより得られるとありがたかった
- 担当者の変更が多く、担当によってガイドラインの運用が変わることがあった
- 経理処理が煩雑で、会計報告のフォーマットが使いづらい。事業実施のための時間が割かなければならなかった

…等もあがった

⑤ JICAに求めること（自由回答）

- 現地状況を鑑みた柔軟な支援
 - JICA内部（国内拠点・本部・在外事務所）の連携強化
 - ガイドラインの多言語化
 - フォーマットの簡易化
 - DX推進
 - 事業申請～承認までの期間短縮
- … （一部回答抜粋）

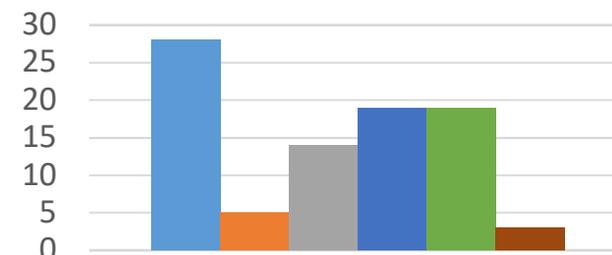
⑥ JICA以外の他支援スキームと比較した場合の草の根技術協力事業の良さ・特徴（複数回答有）



- JICAとの事業を行うことで、関係機関・者からの信頼・関係強化が進めやすい
- JICAと他の事業（技術協力プロジェクト、海外協力隊等）との連携が可能になる
- 従来よりも規模を拡大して事業展開できる
- その他
- 在外事務所等からの事業面でのインプット・支援が得られる
- JICAとのコンサルテーションを通して計画立案・事業の実施を相談しつつ進められる
- 団体のステップアップを後押しするような制度である
- 安全面でのサポートが手厚い
- 特になし

その他) 一定規模の案件実施が可能、同分野専門家からのインプットが得られる、ソフト面支援に重点を置いた活動が展開できる …

⑦ 草の根技術協力事業を実施する中で苦勞したことや課題だと思ったこと（複数回答有）



- 経理処理の煩雑さ
- その他
- 案件形成時の資金的支援
- 経理単価の低さ
- 案件開始までの長さ
- 特になし

その他) JICA担当者間の引継ぎが不十分、担当者がガイドラインや手続き、プロジェクト実施分野に精通していない、経費支給が柔軟でない …

⑧ 今後も草の根技術協力事業に参加したい**YES ⇒ 94.9%**

- JICAの知見・経験やネームバリューを活かした活動ができる
- プロジェクトマネジメント手法等を学ぶ機会にもなる
- 比較的大きな規模の案件実施が可能
- 関係機関等からの信頼が得やすく、現地政府と連携した事業実施が見込める
- JICAとの共同実施のため、成果達成のための適切なガイダンスを受けられる

(一部回答抜粋)

⑨ 草の根技術協力事業の制度（2021年度からの新制度含む）やJICA東京への意見や期待（自由回答）

- 採択件数（特にNGO）が減少傾向にあることを懸念
- 2021年度からの新制度等、実施団体側の意見を取り入れてより効率的な実施に向けた支援をいただいている
- 各年度の募集回数、時期について早めに明示してほしい
- コロナ禍に合わせたより小規模な事業支援スキームが必要

(一部回答抜粋)

⑩ これから新たに草の根技術協力事業に参画を考えている団体に対し、これまでの経験から共有したい知見や助言（自由回答）

- JICA現地事務所の支援や情報共有は大変有用
- 海外での事業経験は人材育成面でとても有益
- 事業開始前と終了後の活動が実は重要で、案件形成時からカウンターパートの信頼を得て良い関係を築くこと、そして終了後もすぐにいなくなるのではなく、少しずつハンドオーバーできるような体制が必要
- 全ての経費が補助されるものではないので、予めそれなりの自己資金を用意する必要がある
- 事業開始時期の計画がより具体的であることが事業の成功につながる
- 現地での活動に対する思いとともに、組織の高い事務処理能力が必要とされる
- （特に行政組織が実施団体となる場合）事業に対する組織幹部の持続的なコミットメントが不可欠となる

(一部回答抜粋)

●草の根技術協力事業実施団体 以下6団体へインタビュー

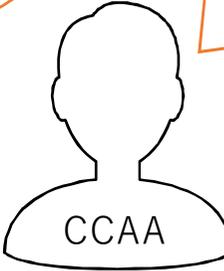
- **（支援型）特定非営利活動法人AVENUE**
ベトナム中山間地域における「なりわい」おこしの村づくりモデル事業（ベトナム）
- **（支援型）一般社団法人異文化伝統工芸交流協会(CCAA)**
バティック制作を通じたインドラマユ県パベアンウディック村の女性雇用創出事業（インドネシア）
- **（パートナー型）公益社団法人シャンティ国際ボランティア会**
幼児教育カリキュラムに基づく「遊びや環境を通じた学び」実践のための基盤構築事業（カンボジア）
- **（パートナー型）特定非営利活動法人国境なき子どもたち(KnK)**
社会性育成を主眼に置いた特別活動実践と体制構築事業（ヨルダン）
- **（地域活性型）学校法人佐久学園 佐久大学**
「健康長寿」長野県佐久市の地域包括ケアを活かしたタイ、チョンブリ県サンスク町における多職種連携による高齢者ケアプロジェクト（タイ）
- **（地域活性型）株式会社ちば南房総**
道の駅の知見を活用したアグロツーリズム推進による農業振興と防災環境の向上（インドネシア）

Q.1 事業を実施するにあたり、草の根技術協力事業を選択された理由はなんですか？



JICA駒ヶ根の職員が来校した際、草の根技術協力事業を知ったことがきっかけで応募。話を聞くまで自分達の業務が国際協力になるとは思いもしなかった。

佐久大学



今回の事業はこれまで関わりのあった国際交流基金の援助では難しかった。JETROにいた方からJICAの紹介を受け、草の根技術協力事業の応募に至った。

CCAA



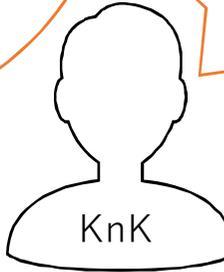
JICAでは長年にわたる国際教育協力の実績を有しており経験豊富であること、また草の根技術協力事業のスキーム自体が人材育成に重点を置いているため事業内容と合致していたこと、の2点がある。

シャンティ



当方が構想した事業内容からして、申請から事業実施までのすべてのフェーズにおいて、草の根技術協力事業でないと事業が実施できなかった。現地の状況変化に対して柔軟に事業の修正ができるのが、草の根技術協力事業の良さだと実感している。

ちば南房総



中長期で腰を据えて活動に取り組むことができるから。他のスキームと比べると、ソフト面の事業をじっくり行うことに草の根技術協力事業が適していた。

KnK



当団体はNPOとしては規模が小さく人数も少なかった。そのような組織にとって草の根技術協力事業は書類作成や手続きなど大変だが、現地のJICAに対する信頼性の高さ、金額的に魅力的であった。また、コンサルテーションをしてくれることもよかった。

AVENUE

Q.2-1 草の根技術協力事業を行うにあたり、具体的に上手くいったことはなんですか？

本案件にかかわった関係者の人間関係が良好で、終始笑顔で現地関係者と信頼に基づく良いコミュニケーションができています。そのおかげで良い成果を生み、国際協力に対する高いモチベーションを持って活動できている。（例：いつも真面目であり笑顔を見せない短期専門家の医師が満面の笑みになるほど活動に対するやりがいを感じていた。）

佐久大学

事業マネジメント研修が非常に役に立ち、応募からスムーズに採択まで進めることができたこと。

CCAA

コンサルテーションを通じて JICAが有する専門的知見を建設的な助言として受ける機会が多かったこと。

シャンティ

現地の状況に合わせて事業内容柔軟に修正できる点が良かった。

ちば南房総

NGO向けの事業マネジメント研修に参加し、事業計画は軌道修正がつきものであることを学んだ。初めから（必要に応じて）計画の見直しは可能と言われていたので、実際に変更が必要となった際、柔軟な対応をしてくれたのが良かった。

KnK

渡航できなくても現地の人々がよく利用しているFacebookやZoomを活用してオンラインで繋がることができたこと。それらの媒体を通じて活動に関することはもちろん、普段の生活の様子等見ることができ、対象地域の別の側面が見えてきたことは良かった。

AVENUE

Q.2-2 草の根技術協力事業を行うにあたり、具体的に苦労したことはなんですか？

開発途上国では信頼できるデータがほとんどない中で、データを収集しつつ、プロジェクトを遂行することが難しかった。

佐久大学

コロナ禍で日本の販路確保にかなり苦労した。また、渡航制限のため現地自治体との連携が難しかった。

CCAA

提案書のページ数制限のため、妥当性、効率性、効果、インパクト、持続発展性を適切に網羅するのが難しかった。

シャンティ

当初苦労したことは、草の根技術協力事業の狙いや提案書の構造、書類内の言語が分かりづらかったこと。事前調査も入念に行わなければ提案書を書くのは難しい。また、事業実施期間を通してカウンターパートとは良好な関係を構築できたが、仕事の進め方に対する考え方の違いがあり戸惑うこともあった。

ちば南房総

PDM改訂のタイミングとそれを四半期報告書等の書類に反映させるタイミングが分かりにくく苦労した。またヨルダンの関係省庁では人事異動が頻繁にあり、引継ぎも十分でない場合が多く、MMの取り付け及び事業開始、その後のCPとのMoUの締結まで、それぞれ時間を要し、苦労した。

KnK

NGO登録が苦労した点。必要書類の準備に時間がかかり、事業期間を延長したことで3年の登録期間が終わった後の事業実施許可をもらう等の対応が大変だった。また、現地対象地域に英語話者がいなかったため、コミュニケーションにも苦労した。Google翻訳を多く利用したが、誤訳もあり誤解が生じることがあった。コロナ禍、事業終了間際に現地に渡航したが、そのための手続きが大変だった。

AVENUE

Q.3 草の根技術協力事業だからこそ経験することができ、今後の活動にも活かすことができると考えていることはありますか？

草の根技術協力事業だからこそヘルスポランティアを日本に呼んで研修することができ、帰国後もナースなどの補佐役ができるような知識や手技を習得することができた。他スキームでは一般市民であるヘルスポランティアの育成は難しいと思う。

佐久大学

JICA及び団体、現地と三人一組で活動したことは初の経験で、足並みをそろえることも難しかったが非常に大きな経験。

CCAA

地域レベルでの文字通り草の根の活動ができることに加えて、JICAと連携することで、中央省庁に対する政策アプローチも行えること。すなわち、ボトムアップを指向する事業ができること。

シャンティ

多くの南房総市の職員が現地に渡航でき、政治体制や生産手法、さらには人々の考え方を学べたことが大きな経験につながっている。現地に行った職員の中には、国際交流協会を設立した者もいる。今後の地域振興は海外の状況を勘案して進める必要性が増しており、現地の振興に携わったことは南房総市の振興にもつながっていく。

ちば南房総

中長期的に事業に注力できること。他のスキームでは短期間で報告書作成や振り返りを行わなければならないが、事業に集中することが難しかった。

KnK

現地での活動を通してJICAブランドの大きさを実感しながら、自分たちはあくまで一市民として村の人々と対等な立場で話し合い、活動できた点が良かった。

AVENUE

Q.4 事業実施中、受益者の方に言われて嬉しかったことを教えてください。



事業中に開催されたヘルス・フェスティバルで、「病院長や看護師等専門職のみならず、地域の専門職ではないヘルスポランティアが役割を持って参加している。この町で今までになかったことがプロジェクトの活動で起こっている。」と言われたこと。

佐久大学



「下請けではなくジャカルタのバイヤーにも直接つながるので、非常に嬉しい。次世代にもバティックをつないでいくことができる」と言われたこと。

CCAA



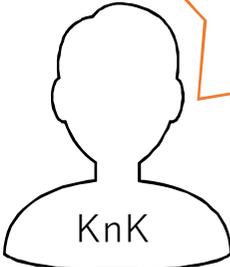
「日本の知見を導入するだけでなく、それをどう活用するかをカンボジア人皆で考えるべきだと私たちに考えるスペースを与えてくれることは、とても珍しく感じて、日本とカンボジアが相互に協力できる良い事業だと思う」という声をもらったこと。

シャンティ



過去に実施したベトナムでの案件実施中に、農家の人々に「お前達のことを一生忘れない」と言ってもらえたこと。

ちば南房総



今までは、子どもの名前もあまり覚えておらず、勤務時間に学校にいれば良いと考える先生が多かったが、事業対象校の先生から、「今までは子どものことをしっかり見ていなかった」、「子どもに対する理解が深まった」と言われたことが印象深い。

KnK



住民たちに自主性が生まれたこと。例えば公民館の前には知らないうちに花畑ができていた。観光客をもてなすために何が必要かを住民が考えた結果であり、事業が役立ったと実感した。

AVENUE